

シュローダー・スナッフショット

# マルチアセット・ビュー グローバル市場見通し

2024年6月

見通しの表示： ● 強気 ● 中立 ● 弱気 矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）

好調な業績見通しなど、企業ファンダメンタルズが良好なことに伴って引き続き支援材料になると考え、強気の見通しを維持しています。

5月の米国インフレ指標は市場予想対比下振れました。運用チームで使用するフェアバリューモデルに基づくと、米国債は妥当な価格水準にあります。全体として、中立の見通しを維持しています。

米国社債市場における割高感の一部緩和したものの、バリュエーションは依然として高水準にあります。ただし、流動性や魅力的なキャリーが支援材料になるとみて、中立の見通しを維持しています。

一部の経済指標は、製造業が回復傾向にあるとの見方に水を差す内容となりました。堅調なパフォーマンスが続いていたことを受け、産業用金属のポジションについては利益確定を行いました。









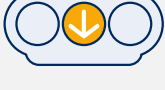
資産クラス	分類	見通し
株式	米国	米国経済は引き続き堅調に成長するとの見方から、強気の見通しを維持しています。
	欧州	ソフトランディングの見方が十分に金融市場に織り込まれたと判断したことや欧州株式市場の上昇に一服感が出てきたことを踏まえ、見通しを中立に引き下げました。
	日本	円安が輸出企業の利益を押し上げるとの期待は、輸入コストの上昇を受けて後退しました。輸入価格の上昇は、消費者信頼感の悪化や中小企業の利益圧迫につながるとみて、見通しを中立に引き下げました。
	アジア（除く日本）	台湾や韓国などの輸出が改善されることを期待し、見通しを強気に引き上げました。ただし、中国については、中立の見通しを維持しています。
	新興国	多くの新興国でインフレ抑制を実現しており、より信頼性のある財政政策が行われています。製造業の景気サイクルからも恩恵を受けるとみて、見通しを強気に引き上げました。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。




シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社




金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号  
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会



資産クラス	分類	見通し
国債	米国	 5月の米国インフレ指標は市場予想対比下振れましたが、米国債は妥当な価格水準にあると考えます。インフレ圧力の緩和が続くとみて、よりよい価格水準でエントリーすることを模索しています。
	欧州 (ドイツ国債)	 6月、欧州中央銀行（ECB）は利下げに踏み切りました。ただし、5月のユーロ圏インフレ指標が再加速したことを受けて、ECBは今後の利下げに慎重になる可能性があり、中立の見通しを維持しています。
	新興国 (現地通貨建て)	 魅力的なバリュエーションとキャリー水準を提供していると考えますが、新興国債券ではなく、代替ポジションとして新興国通貨を保有することを選好しています。
	インフレ連動債	 インフレ目標への回帰が難航するリスクに対してヘッジになることから、強気の見通しを維持しています。
投資適格社債	米国	 割高な水準にあるとみっていますが、好調な経済成長や流動性など様々な支援材料があることを踏まえ、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 割高な水準にありますが、米国社債市場と比べて相対的に魅力的であると考えています。引き続き、中立の見通しを維持しています。
	新興国 (米ドル建て)	 良好な企業ファンダメンタルズ、魅力的なキャリーを評価しているものの、スプレッド水準では割高感が浮上しているため、中立の見通しを維持しています。
ハイイールド社債	米国	 米国投資適格社債と同様、バリュエーションは割高な水準にあります。しかし、良好な流動性や利回り水準を好感し、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 スプレッドが縮小したことを受けて、見通しを中立に引き下げました。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 OPEC+は原油減産を継続していますが、今年後半には削減量を縮小することが予想されます。一部の経済指標は軟化の兆候を示しており、需要が減速する可能性も踏まえ、中立の見通しを維持しています。
	金	 金は、利下げサイクルにおけるパフォーマンスが好調であることに加え、地政学リスクやインフレ再燃リスクに対するヘッジにもなるとみて、強気の見通しを維持しています。
	産業用金属	 中長期的には強気の見方を維持しているものの、堅調なパフォーマンスが続いていたこと等のテクニカル要因を考慮し、短期的には見通しを中立に引き下げました。

資産クラス	分類	見通し
通貨	米ドル	 その他通貨保有との分散効果やポジティブなキャリーを好感し、強気の見通しを維持しています。
	ユーロ	 ECBが米連邦準備制度理事会（FRB）より速いペースで利下げを行い、金利差が広がる可能性を踏まえ、見通しを中立に引き下げました。また、フランスで政治的不確実性が高まっていることも懸念しています。
	日本円	 為替介入の効果は限定的であり、円高を招く材料が欠けることから、見通しを中立に引き下げました。

本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デューレーション・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

**【本資料に関するご留意事項】** 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダーplcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。



創業から200年超、日本に根ざして50年。  
 卓越した資産運用サービスをお届けするため、  
 私たちの視線が向かうのは、いつもひとつ先の未来。  
 今また新たな投資機会の発掘に向け、  
 シュローダーは動き出しています。